

NP再考4ー初回のセッション計画

文責 神村富美子

初回のセッション計画については「親教育プログラムのすすめ方」の p.122～126に書いてあります。ただ、日本でしばらく行ってみたいやりやすい方法が多少異なるのでお知らせいたします。初回の決まりごととしては

- NPについて説明する
- 自己紹介をする
- アイスブレイカーは同心円をする
- ルールづくりをする
- 話し合いたい話題を出し合う

注：同心円の行い方

4人程度の小人数グループで着席

- ①グループごとに模造紙に大きな楕円をかいてもらう。中に小さな楕円を書いてもらう。
 - ②中の楕円に「できるだけたくさんグループの共通点をみつけて書いてみてください。」
とって簡単な例などをあげる。
 - ③グループごとにどんな共通点があったかを発表してもらう。
 - ④周囲の大きな円を4等分（3人なら3等分）してもらう。
 - ⑤「外側の円の自分の前のスペースに、今度は自分だけの特徴を書いてください。書く前に周りの人に確認してください。」とって簡単な例をあげる。
 - ⑥「今度は右隣の人を他己紹介してください。」とって1グループずつ、行う。
- *同心円は「お互いの共通点を大事にしつつ、違いを尊重し合う」というNPの象徴的アクティビティです。上記の手順を省略しないように行いましょう。

などがあります。テキスト p.126のセッション計画では「体験学習サイクルの紹介」が入っています。しかしながら初回ではテーマ決めに思いのほか時間がかかり、時間がとれない。突然「体験学習サイクル」について説明するのは、学校のようにしてしまうのではないか？という不安もあるかもしれません。実際、皆さんのセッション実施表を拝見しても、初回到体験学習サイクルの説明をしている人は、ほとんどいらっしゃいません。

かわりに保育について説明をしたり、預けてみての感想を聞いたりするファシリテーターはいます。これは日本の事情にかなったことなのではないかと思えます。NPで初めて子どもと離れる時間を持ったという親御さんは、結構いらっしゃるのです。日本の家族問題の根底に、母子密着の問題があると指摘されてから久しいですが、環境や地域によっては子どもと離れるチャンスがなく、数年を過ごしてしまう親御さんもまだまだたくさんいらっしゃいます。そういう親御さんにとって、初めて子どもと離れるというのは強烈な体験です。罪悪感を持つ方、「うちの子は、自分と離れたらいられないのでは？」と心配なさる方、さまざまです。だからこそ、NPで子どもと離れてポジティブな体験ができることが大切なのです。初回到保育に関する不安や心配を話し合い、ファシリテーターがそうした気持ちを受容した上で、離れて過ごすことの親のメリット、子どものメリットについて情報提供すると

いいかもしれません。せっかくNPに参加されたのに、親の分離不安で2回目から来なくなってしまふのは残念ですから。

ということで実際みなさんが行っている、もしくは時間内に行える初回セッション計画は以下のようなものとなるでしょう。

初回セッション計画

<オープニング>

受け入れ

名札書き

ファシリテーターの自己紹介

NPについての説明（NPとテキストについて）

参加者の自己紹介

アイスブレイカー（同心円）

<主部>

保育について

ルールづくり

テーマ決め

<結び>

ファシリテーターのまとめ

振り返り（参加者の一人一言）

そして初回にでたテーマからグループの発達を考え、もっとも扱いやすいテーマを2回目のテーマとします。（価値観や、プライバシーに立ち入るものはさけます。）

初回が終わったあとで全体のプログラム計画をたて、2回目に提示し、参加者の同意を得ます。（もちろん初回でそこまでできるならしても結構です。）

初回のセッションで大切なことはお互いに知り合い、場に安心感がもてることです。

ですからセッション計画以外に、多くのファシリテーターは会場の快適さ、安心できる保育、BGMの選択、お茶やお菓子の準備などにも気を使っているようです。そうした見えないところにも気遣うファシリテーターの思いが、NPやファシリテーターの高評価を生み出しているのではないかと思います。